

# 『古琉球の劇場都市』

<仮説>

古琉球の首里の空間は、諸儀礼を行うに相応しくするために聖別、秩序化されたのではなからうか。

「劇場国家」(クリフォード・ギアーツ、青木保)

バリ島の王国(ヌガラ、19世紀以前)、スリランカのキャンディ王国ルネッサンス期のヴェニス共和国がその例。

「劇場国家の前提」

支配と服従の関係が、例えばヨーロッパ型支配のような対峙関係ではなく、儀礼(一つの政治目標)の完成度を両者が共に担うという方向性をみせる。

儀礼とは

それを行うものの公的な意思の表明であって、日常には見えないものを可視化させる。

「国家と儀礼(青木保)」

国家は単なる権力手段によってだけまとまる(める)ことは出来ない。それを裏付ける宇宙論が要求される。(各国にある神話、各島の島建の話)この宇宙論を人々に絶えず知らしめることが統治に必要で、これを示すのが儀礼である。

## 国家儀礼が国家(の本質)のテキストとなるための前提条件と背景

教科書 p.175 支配・統治する側とされる側の意味世界がつながっていること。  
支配の方法が文化的な様式に依存し、かつ支配のされ方も同様な様式に従う。  
王国レベルの儀礼の特徴はいかに寄せ集め적であれ、異界のすべてが王府の創設に係わる神話の中に組み込まれる。

### 冊封儀礼 儀礼による支配

朝貢関係とは・・・・・・(その政治理念は「礼」)p.184

### 朝拝儀礼 地域と身分の統合としての国王

本来、土着的な儀礼(国家的農耕祭司)から中国・儒教的な「絶対王権」や「君子」の転身。(1719年、尚敬王七年、『球陽』)

1間切りから24人参加(本島で35間切り)

朝拝儀礼とは・・・・・・p.188

### 聞得大君新下り 神話行為の反復確認

儀礼の二つの意味 { 心霊(神力)付け・・・・・・「御名付け」  
山籠り的な神事・・・・・・「イザイホー」

琉球の創世神話 ↔ 斎場御嶽

(アマミキヨの神話的行為の反復・確認)(第一尚王統の発祥との関連地)

聞得大君新下りとは・・・・・・p.192

劇場都市空間の特性(分析)

「中心を示す働き」(冊封、朝拝、儀礼)

「境 文化に関する事柄」

境は必ずしも強固な城壁である必要はない。シンボリックな物(罪のない物)で十分である。すなわち文化に関する事柄である。

決壊を示す注連縄、シマクサラシ(シマフサラシー)

儀礼—— 中心を顕在化させ、常に一つの中心を作り出す。

(国家と社会の統合、中心が必要)

ベネディクト・アンダーソン

国家とは——相像の対象物、「相像の共同体」

p.200